



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年7月28日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	40,218	△1.0	1,797	321.7	2,294	160.0	1,611	249.3
29年3月期第1四半期	40,620	△1.0	426	△61.6	882	△44.4	461	△49.7

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 3,660百万円 (—%) 29年3月期第1四半期 △742百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	30.15	—
29年3月期第1四半期	8.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	188,080	144,698	76.7
29年3月期	190,116	142,108	74.5

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 144,324百万円 29年3月期 141,724百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	81,600	0.6	1,900	△24.4	2,600	△23.7	1,400	△33.5	26.19
通期	165,000	1.9	6,600	8.7	8,000	5.9	4,700	8.8	87.94

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	55,194,823株	29年3月期	55,194,823株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	1,749,516株	29年3月期	1,749,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	53,445,386株	29年3月期1Q	55,546,124株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、第1四半期の業績を鑑み、現在、第2四半期以降の施策、経費使用時期等について検討中であり、業績予想につきまして修正すべきと判断した場合は、速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年6月30日、以下「当第1四半期」）の我が国経済は、前期から引き続き好調な企業収益を背景にして、雇用情勢、所得環境は改善傾向にあり、総じて緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、海外経済の不確実性は依然として高く、先行きは予断を許さない状況が続いております。

そのような環境の中、すべての事業が一つになってホスピタリティ溢れる対応ができる企業を目指す長期戦略「ONE DUSKIN」の第1フェーズであり、業績を回復させ再び成長軌道に乗せることに主眼を置く「中期経営方針2015」の最終年度のスタートを切った当社は、基本戦略、重点施策を着実に実行することに注力しております。

当第1四半期の業績は、主力のクリーン・ケアグループは増収となったものの、不採算店舗のクローズで稼働店舗数が減少したこと等でミスタードーナツの売上高が減少しフードグループが減収となったことにより、連結売上高は前年同期から4億2百万円（1.0%）減少し402億18百万円となりました。一方、連結営業利益につきましては、減収による利益の減少があったものの、退職給付費用の減少やレンタル製品投入及び販売促進費の使用時期の変更等により増益となり、前年同期から13億71百万円（321.7%）増加し17億97百万円、連結経常利益は14億11百万円（160.0%）増加し22億94百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から11億49百万円（249.3%）増加し16億11百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成30年3月期第1四半期)	増減	
				増減率 (%)
連結売上高	40,620	40,218	△402	△1.0
連結営業利益	426	1,797	1,371	321.7
連結経常利益	882	2,294	1,411	160.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	461	1,611	1,149	249.3

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成30年3月期第1四半期)	増減	
				増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	27,516	28,181	664	2.4
フードグループ	10,426	9,169	△1,256	△12.1
その他	3,528	3,617	89	2.5
小計	41,471	40,968	△502	△1.2
セグメント間取引消去	△850	△749	100	—
連結売上高	40,620	40,218	△402	△1.0

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益又は営業損失（△）

(単位：百万円)

	前第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成30年3月期第1四半期)	増減	
				増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	2,442	3,335	892	36.5
フードグループ	△443	89	532	—
その他	102	105	3	3.1
小計	2,101	3,529	1,428	68.0
セグメント間取引消去 及び全社費用	△1,675	△1,732	△57	—
連結営業利益	426	1,797	1,371	321.7

※各セグメントの営業利益又は損失には、セグメント間の取引を含んでおります。

①クリーン・ケアグループ

主力のダストコントロール商品の売上高は、昨年9月から一部地域でレンタルを開始し、当期初より全国展開した「ロボットクリーナーSiRo」が寄与したこと等により前年同期の売上高を上回りました。また、レントオール事業（日用品・イベント用品等のレンタル）、ユニフォーム関連事業等その他の事業も増収となり、クリーン・ケアグループ全体の売上高は前年同期から6億64百万円（2.4%）増加し281億81百万円となりました。営業利益につきましては、増収に伴う粗利の増加に加え、スタイルクリーナー等レンタル製品投入及び販売促進費の使用時期の変更等により、前年同期に比べ8億92百万円（36.5%）増加し33億35百万円となりました。

家庭向けダストコントロール商品につきましては、「おそうじベシク3」（フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」のセット商品）は順調に推移しているものの、その他のモップ商品やフィルター商品等の売上は減少しました。その他では「ロボットクリーナーSiRo」の寄与や当期新たな顧客接点獲得のため積極販売している台所用スポンジが好調に推移していること等により、全体では前年同期の売上高を上回りました。

事業所向けダストコントロール商品につきましては、1月よりレンタルを開始した「空間清浄機クリア空感中型」の寄与の他、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」等の当社独自の高性能マットの売上は増加し、マット商品全体では前年同期の売上高を上回りました。しかしながら、モップ商品や「ウォーターサーバー」本体の売上が減少したこと等で、全体では前年同期並みの売上高となりました。

役務提供サービスにつきましては、売上高は前年同期を上回りました。「サービスマスター（プロのお掃除サービス）」「メリーメイド（家事の代行サービス）」等、既存のサービスが順調に推移した他、当期より本格導入した「ホームリペア（壁や床の補修サービス）」も寄与し、お客様売上が増加した結果、ロイヤルティ収入、サービス実施時に使用する資器材等のフランチャイズ加盟店向け売上も増加しました。

②フードグループ

お客様売上が減少したミスタードーナツは、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料売上共に減少しました。その他のフード事業につきましても、前期に連結子会社を譲渡したこと等により減収となり、フードグループ全体の売上高は前年同期から12億56百万円（12.1%）減少し91億69百万円となりました。前年同期は損失計上となった利益面につきましては、減収に伴う粗利の減少があったものの、配送費他経費減少等の結果、前年同期から5億32百万円増加し、89百万円の営業利益を計上しました。（前年同期は4億43百万円の営業損失）

フードグループの主力であるミスタードーナツは、昨年11月に発表した新事業方針に沿って、新タイプ店舗の新規出店・改装に注力しました。また“最高水準の素材と技術”を持つ企業と「miso meets」をテーマに共同開発した、より魅力ある商品を提供することに注力しました。4月は京都の宇治茶専門店祇園辻川の抹茶を使用した「抹茶スイーツプレミアム」を発売、多くのお客様から支持されました。4月下旬からは、人気のラーメン店ソラノイロと共同開発した麺・スープ・トッピング全てに野菜を使用した「ベジ涼風麺」を発売、6月にはハウス食品株式会社と共同開発した「ドーナツカレー」を発売しました。また、前期に続く大王製紙株式会社とのコラボレーション企画やKDDI株式会社「auエブリデイ」への参加等、来店誘引につながる他企業とのキャンペーンにも積極的に取り組みました。しかしながら、不採算店舗のクローズに伴う稼働店舗数の減少影響等により、全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。なお、新テイクアウト専門店「Mister Donut to go」を新たに4店舗出店いたしました。

また、どんぶり専門店「ザ・どん」等を展開していた連結子会社株式会社どんの全株式を前期中に株式会社フジオフードシステムに譲渡したことを主因に、その他のフード事業の売上高も前年同期を下回りました。とんかつレストラン「かつアンドかつ」は好調を維持しておりますが、「カフェデュモンド」、「パイフェイス」（パイ専門店）、「ザ・シフォン&スプーン」（シフォンケーキ専門店）、「ベーカリーファクトリー」（大型ベーカリーショップ）は減収となりました。

③その他

その他につきましては、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社は、大口顧客の契約が再リースとなったこと等で減収、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは、新規顧客の獲得により増収となりました。海外につきましては、為替水準が引き続き円高で推移し、また、中国（上海）でミスタードーナツ事業を展開する美仕唐納滋（上海）食品有限公司が減収となったものの、樂清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）がペーパータオルの取扱量増加により増収となったことに加えて、前期子会社化したBig Appleグループ（マレーシア最大のドーナツチェーン）の売上が計上されたこと等で海外全体では増収となりました。その結果、その他全体の売上高は前年同期から89百万円（2.5%）増加し36億17百万円となりました。営業利益につきましては、ダスキン共益株式会社、株式会社ダスキンヘルスケアがいずれも減益となったものの、海外事業における営業損失が減少したこと等により、その他全体の営業利益は前年同期から3百万円（3.1%）増加し1億5百万円となりました。

海外事業の動静につきましては、クリーン・ケア事業を展開している台湾、中国（上海）のお客様売上はいずれも前年同期を上回りましたが、韓国は大口顧客の解約等により前年同期を下回りました。一方、ミスタードーナツ事業は、台湾、インドネシアは順調に推移しておりますが、中国（上海）、タイ、フィリピン、マレーシアのお客様売上は減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,880億80百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して20億35百万円減少しております。その要因は、未収入金及び前払費用の増加により流動資産のその他が9億95百万円増加したことに対し、現金及び預金が28億66百万円減少したこと等であります。

負債残高は433億82百万円となり、前期末と比較して46億25百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が21億40百万円、賞与引当金が17億28百万円、未払金が11億16百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,446億98百万円となり、前期末と比較して25億89百万円増加しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が19億47百万円、利益剰余金が5億42百万円増加したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）通期及び第2四半期累計期間の業績予想につきましては、平成29年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,200	18,333
受取手形及び売掛金	9,887	10,005
リース債権及びリース投資資産	1,359	1,400
有価証券	16,018	15,027
商品及び製品	7,388	7,521
仕掛品	157	202
原材料及び貯蔵品	1,557	1,495
繰延税金資産	1,719	1,284
その他	2,766	3,761
貸倒引当金	△34	△36
流動資産合計	62,021	58,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,157	43,856
減価償却累計額	△26,388	△26,235
建物及び構築物（純額）	17,769	17,621
機械装置及び運搬具	24,880	24,882
減価償却累計額	△18,134	△18,242
機械装置及び運搬具（純額）	6,745	6,639
土地	23,628	23,459
建設仮勘定	241	333
その他	11,903	11,965
減価償却累計額	△8,955	△9,145
その他（純額）	2,948	2,820
有形固定資産合計	51,334	50,874
無形固定資産		
のれん	793	742
その他	6,825	6,819
無形固定資産合計	7,618	7,561
投資その他の資産		
投資有価証券	58,979	61,426
長期貸付金	5	4
繰延税金資産	2,263	1,397
差入保証金	6,304	6,264
その他	1,616	1,582
貸倒引当金	△27	△27
投資その他の資産合計	69,142	70,648
固定資産合計	128,095	129,084
資産合計	190,116	188,080

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,836	6,970
短期借入金	78	142
1年内返済予定の長期借入金	10	7
未払法人税等	2,337	197
賞与引当金	3,255	1,527
資産除去債務	12	38
未払金	7,583	6,466
レンタル品預り保証金	9,421	9,353
その他	5,069	5,028
流動負債合計	34,603	29,732
固定負債		
退職給付に係る負債	11,901	12,114
資産除去債務	616	575
長期預り保証金	812	882
長期未払金	74	74
その他	0	3
固定負債合計	13,403	13,649
負債合計	48,007	43,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,086	11,086
利益剰余金	117,332	117,875
自己株式	△3,568	△3,569
株主資本合計	136,203	136,745
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,754	9,702
繰延ヘッジ損益	—	1
為替換算調整勘定	△120	△119
退職給付に係る調整累計額	△2,113	△2,004
その他の包括利益累計額合計	5,521	7,579
非支配株主持分	384	374
純資産合計	142,108	144,698
負債純資産合計	190,116	188,080

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	40,620	40,218
売上原価	22,680	22,178
売上総利益	17,940	18,040
販売費及び一般管理費	17,514	16,242
営業利益	426	1,797
営業外収益		
受取利息	107	88
受取配当金	155	161
設備賃貸料	23	39
受取手数料	55	43
持分法による投資利益	64	101
雑収入	166	106
営業外収益合計	573	542
営業外費用		
支払利息	0	1
為替差損	45	0
設備賃貸費用	13	13
雑損失	58	30
営業外費用合計	116	45
経常利益	882	2,294
特別利益		
固定資産売却益	0	2
その他	0	0
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産売却損	7	89
固定資産廃棄損	10	28
災害による損失	65	0
その他	1	0
特別損失合計	84	118
税金等調整前四半期純利益	798	2,178
法人税等	339	575
四半期純利益	459	1,603
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△7
親会社株主に帰属する四半期純利益	461	1,611

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	459	1,603
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,315	1,947
繰延ヘッジ損益	△12	1
為替換算調整勘定	△83	△31
退職給付に係る調整額	265	105
持分法適用会社に対する持分相当額	△55	33
その他の包括利益合計	△1,201	2,057
四半期包括利益	△742	3,660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△710	3,668
非支配株主に係る四半期包括利益	△31	△8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,313	10,423	2,883	40,620	—	40,620
セグメント間の内部売上高 又は振替高	202	2	644	850	△850	—
計	27,516	10,426	3,528	41,471	△850	40,620
セグメント利益又は損失(△)	2,442	△443	102	2,101	△1,675	426

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,675百万円には、セグメント間取引消去15百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,690百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に1億42百万円、株式会社ダスキン鹿兒島に1億45百万円のものれんを計上しております。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	44	3	—	—	48
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	503	43	—	—	546

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高503百万円(クリーン・ケアグループ)、43百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,978	9,166	3,073	40,218	—	40,218
セグメント間の内部売上高 又は振替高	202	3	543	749	△749	—
計	28,181	9,169	3,617	40,968	△749	40,218
セグメント利益又は損失(△)	3,335	89	105	3,529	△1,732	1,797

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,732百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,746百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	43	—	5	—	48
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	538	—	203	—	742

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高538百万円(クリーン・ケアグループ)、平成29年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高203百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。